2026 2/24 第104号

ふくしま 再生 短信

山津見神社例大祭２０２５ 12/04-12/06 第３部（最終回） トノ オオカミに祈る

トノ オオカミに祈る

２０２５年１２月６日午前１１時、トノこと相馬中村藩第３４代当主、相馬行胤（ソウマミチタネ）さんが飯舘村の村内巡回を経て山津見神社参拝に訪れた。拝殿の参道前で乗馬から降り、氏子のみなさんが待ち受ける中（写真１）、先ずは復元なったオオカミ天井絵の下に現れ（写真２）、氏子のみなさんと共に参拝に臨んだ（写真３）。

1

3

2

トノは言う「２０１１年未曾有の大災害が起きた後、私の唯一の道標は幾多の困難を乗り越えてきた先人たちの教えでした。歴史に希望を見出し、私どもに伝えてくださった大切なものを次世代に引き継ぎ、１０００年続いてきたものをさらに１０００年続ける。それこそが長きに渡りお世話になっている故郷のために私にできる唯一の事だとおもっております。あの日から１２年以上の月日が経った今年、私たちは新たなステージに向かいます。（２０２３年８月１日、人と馬と自然とが共生する「驫（ノーマ）の谷」https://nomavalley.jp）

トノは参拝を終えて終始にこやかにオオカミのお面を手にして参拝客の中に入り歓談（写真４・５）、「例大祭のみなさまに感謝します」との言葉を残して再び馬上の人となった（写真６）。

（写真２、３は佐藤俊雄さん・他は筆者撮影、文責・若林一平）

4

5

6

山中郷 産馬とオオカミ信仰

「まず結論として、飯舘（村域は「山中郷」）は江戸時代から馬の産地で、馬を襲うオオカミを畏れたことが、信仰に結びついたのだと思われる。・・山中郷は、ほとんどが山間部の高冷地であったため、耕地からの収穫を基本とする江戸時代を通じて自然災害に苦しめられた。・・相馬全域に及んだ窮乏に対処するため、藩で奨励したのが馬の育成であった。・・１８４３（天保１４）年、相馬益胤は無償で厩と馬を貸し与え飼育させた。とりわけ原野に富み、真野川などの川が流れる山中郷は放牧に適していたため、領内随一の馬産地とされた。・・相双地区の重要な伝統行事である「野馬追」は、相馬家が妙見神に馬を奉納する神事であり、近世には軍事演習の役割も果たして現在まで引き継がれている」。（福島県立美術館副館長・増渕鏡子、『人間と自然の共生　山津見神社オオカミ天井絵復元そして未来へ』第３章、山津見神社例大祭実行委員会、２０２５年１１月２５日発行）